

歯科医師臨床研修制度の改正に関するワーキンググループ(第4回)	参考資料 3
平成31年4月23日(火)	
歯科医師臨床研修制度の改正に関するワーキンググループ(第3回)	資料1
平成31年3月29日(金)	

歯科医師臨床研修制度の 到達目標の見直しについて **(3) 個別項目** **(基本的診療業務について)**

第2回WGの議論の整理

「A. 歯科医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)」 に関する議論

- 「A. 歯科医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)」については、事務局(案)でよいのではないか。

A. 歯科医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)

A-1 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

A-2 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともにQOLに配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

A-3 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

A-4 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

「B. 資質・能力」に関する議論①

○ 「B-1 医学・医療における倫理性」については、事務局(案)でよいのではないか。

B-1 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

○ 「B-2 医学知識と問題対応能力」の「医学」「医療」の記載について、「歯科医学」「歯科医療」との関係を整理する必要があるのではないか。

○ 診療上の問題に対応する際のひとつの方法として、「連携」の視点を入れてもよいのではないか。

B-2 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

「B. 資質・能力」に関する議論②

- 「B-3 診療技能と患者ケア」の②について、「一口腔単位」の考え方は重要であるが、患者の背景も考慮すべきであることを含む表現を検討すべきではないか。
- 「診療」と「治療」の整合性について、整理が必要ではないか。(全体を通して)

B-3 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。
- ③ 患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ④ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

- 「B-4 コミュニケーション能力」については、事務局(案)でよいのではないか。

B-4 コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

「B. 資質・能力」に関する議論③

- 「B-5 チーム医療の実践」の①②について、医科歯科連携等のチーム医療を意味することがわかるようにすべきではないか。
- ③の位置づけについては、①②との関係を踏まえて検討が必要ではないか。

B-5 チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ② チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。
- ③ 歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。

- 「B-6 歯科医療の質と安全管理」については、事務局(案)でよいのではないか。

B-6 歯科医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する。
- ⑤ 医療従事者の健康管理(予防接種や針刺し事故への対応を含む。)を理解し、自らの健康管理に努める。

「B. 資質・能力」に関する議論④

○ 「B-7 社会における歯科医療の実践」については、事務局(案)でよいのではないか。

B-7 社会における歯科医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。

- ① 健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。
- ③ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ④ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑤ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。

○ 「B-8 科学的探究」の①については、「科学的」な対応を求めるニュアンスを入れるべきかどうか、②との関係も踏まえてもう少し検討が必要ではないか。

B-8 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点に対応する能力を身に付ける。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解する。

「B. 資質・能力」に関する議論⑤

- 「B-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢」の③について、歯科医学に関する表現を入れてもよいのではないか。
- 今後の議論と全体の流れをみつつ、③の最新の動向の具体例や超高齢社会における歯科医師の役割に関する記載等についてはもう少し検討してもよいのではないか。

B-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、歯科医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や[医学及び医療の最新動向](#)（薬剤耐性菌等を含む。）を把握する。

今後の進め方

- 「B. 資質・能力」について、おおよその方向性については合意が得られていることから、検討事項は「C. 基本的診療業務」の議論を一度行った後、次回以降、再度議論することとしてはどうか。

「c. 基本的診療業務」について

歯科医師臨床研修の到達目標

A. 歯科医師としての基本的価値観 (プロフェッショナリズム)

- 1 社会的使命と公衆衛生への寄与
- 2 利他的な態度
- 3 人間性の尊重
- 4 自らを高める姿勢

B. 資質・能力

C. 基本的診療業務 (選択研修を含む)

- 1 歯科医学・医療における倫理性
- 2 医学知識と問題対応能力

3 診療技能と患者ケア

- 4 コミュニケーション能力

5 チーム医療の実践

- 6 歯科医療の質と安全の管理

7 社会における歯科医療の実践

- 8 科学的探究
- 9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

「C. 基本的診療業務」に関するこれまでの主なご意見

本WGにおける主なご意見

- 現行の「基本習熟コース」と「基本習得コース」をあわせて整理し直すイメージでよいのか。
- 研修歯科医が本当に到達できているのか、あるいはどんなところが足りないのかということが、理解できるようなものがあれば良いのではないのか。
- 細かく内容などを決めすぎて、それをできなかつたら未修了となってしまうのも問題ではないか。

歯科医師臨床研修部会における主なご意見

- 臨床研修の目標はプロセスベースで良いのではないのか。
- 修了時の評価を厳密化しないと技術は身に付かないのではないのか。

「C. 基本的診療業務」について

「B-3. 診療技能と患者ケア」に関連する項目

「B-3. 診療技能と患者ケア」

B-3 診療技能と患者ケア(案)

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。
- ③ 患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ④ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

「診療技能と患者ケア」に関連するこれまでの主なご意見

- 一般歯科治療の習得に関しては、個人差が大きく、経験数だけでは診療技術は評価できないと思われるが、研修が終わった段階で評価が必要なのか。
- 卒前・卒後をシームレスにすることを考えると、行動目標はほとんど変わらないことから、段階を踏んで一つずつステップアップしていったような方式にしていくと、学生・研修医・指導医もわかりやすい。
- 歯科医療が変化するとは言うものの、基本的な手技ができないと歯科医師としてのアイデンティティーがないのではないか。また、歯科医師としてミニマムではないか。

「診療技能と患者ケア」に関する「C 基本的診療業務」について

B-3 診療技能と患者ケア(案)

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。
- ③ 患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ④ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

「B-3 診療技能と患者ケア」の①②に関連する「C.基本的診療業務」(たたき台)

(1) 基本的診察・検査・診断・診療計画

- ①患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、病歴(主訴、現病歴、既往歴及び家族歴等)を的確に聴取する。
- ②全身状態を評価した上で、顎顔面及び口腔内の基本的診療を実施し、所見を判断する。
- ③症例に応じた適切な検査を選択、実施し、所見を判断する。
- ④病歴聴取、所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。
- ⑤患者の状態を総合的に考慮した上で、一口腔単位の診療計画を立案する。
- ⑥十分な説明による患者及び家族の意思決定を確認する。

「診療技能と患者ケア」に関する「C. 基本的診療業務」について

B-3 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。
- ③ 患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ④ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

「B-3 診療技能と患者ケア」の③④に関連する「C.基本的診療業務」(たたき台)

(2) 基本的臨床技能

- ① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。
- ② 高頻度に遭遇する一般的な歯科疾患に対応するために必要な治療を実践する。
 - a. う蝕の基本的な治療
 - b. 歯髄疾患の基本的な治療
 - c. 歯周病の基本的な治療
 - d. 口腔外科疾患の基本的な治療
 - e. 咬合・咀嚼障害の基本的な治療(補綴処置)
- ③ 基本的な応急処置を実践する。
- ④ 歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインの観察及び評価を行う。
- ⑤ 診療に関する記録や文書(診療録、処方せん、歯科技工指示書等)を作成する。

「診療技能と患者ケア」に関する「C 基本的診療業務」について

「B-3 診療技能と患者ケア」の③に関連する「C.基本的診療業務」(たたき台)

(3)患者管理

- ①歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤について説明する。
- ②患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師と診療情報を共有する。(選択)
- ③(再掲)歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインの観察及び評価を行う。
- ④歯科診療時の偶発症、全身的な合併症への対処法を説明する。
- ⑤入院患者に対し、患者の状態に応じた術前・術後管理を実践する。(選択)

(4)患者の状態に応じた歯科医療の提供

- ①小児期、青年期、成人期、高齢期の各ライフステージの患者に対し、その時期に応じた歯科医療を提供する。
- ②ライフステージに応じた歯科疾患の予防管理、口腔機能管理について理解し、説明する。
- ③全身的な疾患を有する患者への対応を実践する。
- ④妊婦への対応を実践する。(選択)
- ⑤障がいをもつ患者への対応を実践する。(選択)
- ⑥在宅療養患者等に対する訪問歯科診療を経験する。(選択)

「C. 基本的診療業務」

「B-5. チーム医療の実践」に関連する項目

「B-5. チーム医療の実践」

B-5 チーム医療の実践(案)

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ② チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。
- ③ 歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。

歯科医師臨床研修部会における主なご意見

- 医科は歯科に比べてチーム医療が進んでいる。特に歯科医師は歯科衛生士と歯科技工士を含めたオーラルヘルsteamとしての意気込みを持って今まともらないと、地域包括ケアシステムから歯科医師が取り残されるのではないかな。
- 多職種連携の中での歯科医師の役割についての明記、また、実施内容・プログラムのいわゆる心の部分について、もっと記載をしたほうが良いのではないかな。

「チーム医療の実践」に関する「C. 基本的診療業務」について

B-5 チーム医療の実践(案)

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。

② チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。

③ 歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。

「チーム医療の実践」の①②に関連する「C.基本的診療業務」(たたき台)

(1)多職種連携

- ①多職種によるチーム医療について、チームの目的、各職種の役割及び歯科専門職の役割を理解し、説明する。
- ②歯科専門職が関与する多職種チーム(例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等)に参画し、関係者と連携する。(選択)
- ③がん患者等の周術期等における口腔機能管理について、その目的を理解し基本的な知識、技能、態度を身に付ける。(選択)
- ④入院患者の療養上の管理や入退院時における多職種支援について理解し、説明する。(選択)
- ⑤在宅療養患者等について、介護関係職種が関わる多職種チームの目的を理解し、参画する。(選択)
- ⑥訪問歯科診療の実施にあたり、患者に関わる医療・介護関係職種の役割を理解し、連携を図る。(選択)

「チーム医療の実践」に関する「C. 基本的診療業務」について

B-5 チーム医療の実践(案)

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。

② チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。

③ 歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。

「チーム医療の実践」の③に関連する「C.基本的診療業務」(たたき台)

(2) 歯科専門職の連携

① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等を連携して実践する。

② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて診療時の連携を図る。

③ 歯科専門職が参画する多職種チームにおいて、歯科衛生士・歯科技工士の役割を理解し、歯科専門職間で連携し、実践する。(選択)

「C. 基本的診療業務」

「B-7.社会における歯科医療の実践」に関連する項目

「B-7. 社会における歯科医療の実践」

B-7 社会における歯科医療の実践(案)

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。

- ① 健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。
- ③ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ④ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑤ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。

本WGにおける主なご意見

- 最近、訪問歯科診療、多職種連携などの研修に対する要望があるが、大学病院での研修では、訪問歯科診療を実施する診療科がないところも多いので、現実的に遍く全員を研修させるのは難しい。
- 卒前で行う訪問歯科診療、多職種連携、全身管理などの研修と卒後の臨床研修で行う内容の違いを明確にするべきではないか。卒前が見学だとすると、臨床研修においては、なんらか参加して実践することが必要ではないか。
- 離島巡回歯科診療に同行する研修に行くと、研修歯科医は成長して、医療者としての心構えを勉強するいい機会になっている。

歯科医師臨床研修部会における主なご意見

- 訪問歯科診療の必要性を考える上では、社会的なシステム(制度)もしっかり学ばなければいけない。
- 地域包括ケアシステムに関しても研修できる内容が必要である。

B-7 社会における歯科医療の実践(案)

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。

- ① 健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。
- ③ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ④ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑤ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。

「社会における歯科医療の実践」の①に関連する「C.基本的診療業務」(たたき台)

(1) 歯科医療提供に関連する制度の理解

- ① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。
- ② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。
- ③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。

B-7 社会における歯科医療の実践(案)

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。

- ① 健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。
- ③ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ④ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑤ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。

「社会における歯科医療の実践」の②③に関連する「C.基本的診療業務」(たたき台)

(2) 地域保健

- ①地域の保健・福祉の関係機関、関係職種について理解し、説明する。
- ②保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。
- ③保健所等における地域歯科保健活動を経験する。(選択)
- ④歯科健診を経験し、地域住民に対する健康教育を実践する。(選択)

B-7 社会における歯科医療の実践(案)

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。

- ① 健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。
- ③ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ④ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑤ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。

「社会における歯科医療の実践」の④に関連する「C.基本的診療業務」(たたき台)

(3)地域医療

- ①地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。
- ②地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を理解し、説明する。
- ③(再掲)在宅療養患者等に対する訪問歯科診療を経験する。(選択)
- ④(再掲)在宅療養患者等について、介護関係職種が関わる多職種チームの目的を理解し、参画する。(選択)
- ⑤(再掲)訪問歯科診療の実施にあたり、患者に関わる医療・介護関係者の役割を理解し、連携を図る。(選択)
- ⑥離島やへき地における地域医療を経験する。(選択)

到達目標「B.資質・能力」「C.基本的診療業務」の構成(案)

歯科医師臨床研修の到達目標

B. 資質・能力	C. 基本的診療業務 (選択研修を含む)
1 歯科医学・医療における倫理性	
2 医学知識と問題対応能力	
3 診療技能と患者ケア	(1) 基本的診察・検査・診断・診療計画 (2) 基本的臨床技能 (3) 患者管理 (4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供
4 コミュニケーション能力	
5 チーム医療の実践	(1) 多職種連携 (2) 歯科専門職の連携
6 歯科医療の質と安全の管理	
7 社会における歯科医療の実践	(1) 歯科医療提供に関連する制度の理解 (2) 地域保健 (3) 地域医療
8 科学的探究	
9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	

「C. 基本的診療業務」に関する本日の論点

(全体)

- 現時点のたたき台について、構成(名称も含め)、項目、内容、表現等、各項目の「B 資質・能力」との関係性も含め、どのように考えるか。
- 選択研修とする項目について、臨床研修施設における実施可能性も考慮した上で、どのように考えるか。

(個別事項について)

- 「B-3 診療技能と患者ケア」について、高頻度治療、応急処置の内容をどこまで個別項目を示し、具体的に記載するか。
- 「B-3 診療技能と患者ケア」の「(4)患者の状態に応じた歯科医療の提供」について、個別の対象について、どのように記載するか。
- 「B-6 歯科医療の質と安全の管理」については、「C. 基本的診療業務」を設定しないこととしていたが、前回WGでご意見をいただいたインシデントレポートの作成について、どのように位置づけるか。